

令和元年度「世界青年の船」事業



序

グローバル化が進展する中で、あらゆる分野で国境を越えた協力・調整・交渉が不可欠となっており、国際社会から地域社会までその舞台を問わず、グローバル化への対応を牽引・指導するリーダーが必要となっています。

「世界青年の船」事業は参加青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神を養い、各分野において社会貢献を行うことができる次代を担うリーダーを育成することを目指しています。

今年度の事業では、日本を含む11か国の青年たちが令和2年1月中旬から陸上研修を経て、30日以上にわたる航海後に再び陸上研修を行いました。

研修においては、世界共通の七つのテーマに分かれたコース・ディスカッションを行うとともに、参加青年が主体となってセミナーを実施することで参加青年それぞれの実践的なスキルの向上を図りました。

特に今年度は、わが国でのオリンピック・パラリンピック競技大会を目前に控えた機会として世界的に多様なバックグラウンドを持つ参加青年が座学によるセミナーや実際の競技会場となる現場の視察を通して優れた技術、日本文化等の知識を習得することで、様々な分野における考え方や諸課題について理解を深めることができました。

訪問国のメキシコにおいては、寄港地となったバハ・カリフォルニア州、ティファナ市、エンセナーダ市での歓迎会やレセプションなどの公式行事を行いつつ、地元大学生との交流をはじめ、オリンピック・パラリンピック競技強化施設、海洋科学研究施設といった課題別視察など、多くの学びの機会を創出することができました。

さらに、日本参加青年は本事業の振り返り及び事後活動について話し合う二日間の帰国後研修を行い、無事に全行程を終了いたしました。

過去の事業に参加した青年たちは、現在、世界各国で様々な社会貢献活動に取り組んでおり、内閣府としてもこのような事後活動を支援しております。

今回参加した青年一人一人が、地域、国家、世界のいずれのステージにおいても、グローバルな文脈で議論し、発信することのできるリーダーとして一層の飛躍を遂げるための素地を身に付けたと確信しているところであり、是非、今後の活動においてリーダーシップを発揮されることを願ってやみません。

本報告書は、世界各国の参加青年が日本国内、船内及び各訪問国で行った様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の成果を御理解いただくとともに、今後の一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府及び事後活動組織、地方プログラムでお世話になったホストファミリーの皆様、外務省を始めとする関係省庁、地方公共団体及び青少年団体の関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和2年3月

内閣府青年国際交流担当室長 田中 俊恵

略称一覧

「世界青年の船」事業	SWY
参加青年	PY
日本参加青年	JPY
外国参加青年	OPY
既参加青年	Ex-PY
ナショナル・リーダー	NL
サブ・ナショナル・リーダー	SNL
アシスタント・ナショナル・リーダー	ANL
アシスタント・グループ・リーダー	AGL
文化遺産の保護コース	CHP
グローバル・シティズンシップコース	GC
地球環境と気候変動コース	EC
多文化共生コース	GIS
健康とウェルビーイングコース	HW
平和構築と国際協力コース	PI
平等な社会におけるテクノロジーコース	TES
「世界青年の船」事後活動組織	SWYAA
日本青年国際交流機構	IYEO
国立オリンピック記念青少年総合センター	NYC

※本文の中で略称が使用されている場合がありますので、御参照ください。

目次

序	3
目次	5
カラーグラビア	7

第1章 事業の概要

事業概要	24
参加青年の活動単位	29

第2章 事業の実施

事前研修	32
外国参加青年の来日	32
出航前研修	32
陸上研修1	32
船上研修	33
寄港地活動	61
陸上研修2	63
帰国後研修	64
地方プログラム	65

第3章 事業に対する評価

管理官評価	72
各国ナショナル・リーダー評価	73
船長からのメッセージ	83

関係資料

参加青年の構成	86
航路概略図	87
参加者一覧	88
にっぽん丸船内配置図	110
事後活動	112
既参加青年による事後活動組織設立への動きとその歴史	112
SWYAA 国際連盟について	114
事業実績 (参加国、期間、乗船者)	116

※ 一部（名簿、写真、挨拶者氏名等）の個人情報については
削除してあります。